

COMPRESSOR 276/276S

取扱説明書



Add-On Effects(アドオンエフェクト)とは

デジタルコンソールなどに高品位なエフェクトプログラムを追加して使用できるソフトウェアパッケージです。



Studio Manager Compressor 276Sウィンドウ

Compressor 276/276S とは

Add-On Effectsで追加使用できるエフェクトプログラムのひとつです。

レコーディングスタジオで定番として求められるアナログコンプレッサーの特性をエミュレートしています。ドラムやベース向きの太く芯のある音が得られます。

Compressor 276Sはステレオモデルです。L/Rチャンネルのパラメーターを連動してコントロールできます。Compressor 276はモノ・スプリット・モデルです。モノラルの2つのチャンネルを独立してコントロールできます。

VCM (Virtual Circuitry Modeling/仮想回路モデリング)とは

アナログ回路の素子レベル(抵抗やコンデンサーなど)からモデリングする技術です。

世界初の物理モデルシンセサイザー VL1、VP1などを開発した国本技師を中心として開発されました。

Compressor 276/276SにはVCMの技術が使われています。

ご注意

- 市販の音楽 / サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- このソフトウェアおよびマニュアルの著作権はすべてヤマハ株式会社所有します。
- このソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- このソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- このマニュアルに掲載されている画面は、すべて操作説明のためのもので、実際の画面と異なる場合があります。
- このマニュアルに掲載されている会社名および商品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Compressor 276/276Sのインストール

Compressor 276/276S のインストール方法については『Add-On Effectsインストールガイド』をご参照ください。

Compressor 276/276Sの使用方法

Compressor 276/276Sは他のエフェクトと同様に、コンソールやStudio Managerでリコールしたり、エディットしたりして使用します。
操作の大きな流れは次のとおりです。

- 1 内蔵エフェクトプロセッサを選択する。
- 2 選択したエフェクトプロセッサへ入出力をバッチする。
- 3 エフェクトライブラリ画面を表示する。
- 4 Compressor 276/276Sのどちらかを選択し、リコールする。
NOTE リコールした瞬間、すべてのエフェクトプロセッサの出力が一時的にミュートされます。
- 5 エフェクトエディット画面を表示する。
- 6 パラメーターを設定する(各パラメーターについての説明は「[各部の名称と機能](#)」を参照)。

具体的なCompressor 276/276Sのリコール/エディット方法は、お使いのコンソールによって異なります。詳しくは、お使いのコンソールに付属の取扱説明書をご参照ください。

Studio Managerでのパラメーターのエディット

Studio Managerでは、エディットできるパラメーターが Compressor 276/276SウィンドウとGeneric Editorウィンドウの2つのウィンドウに分かれています。

基本的に、Compressor 276/276SウィンドウはCompressor 276/276S固有のパラメーターを操作するために、Generic Editorウィンドウは他のエフェクトと共通のパラメーターを操作するために使用します。
Generic Editorウィンドウについての詳細はお使いのコンソールのStudio Manager取扱説明書をご参照ください。

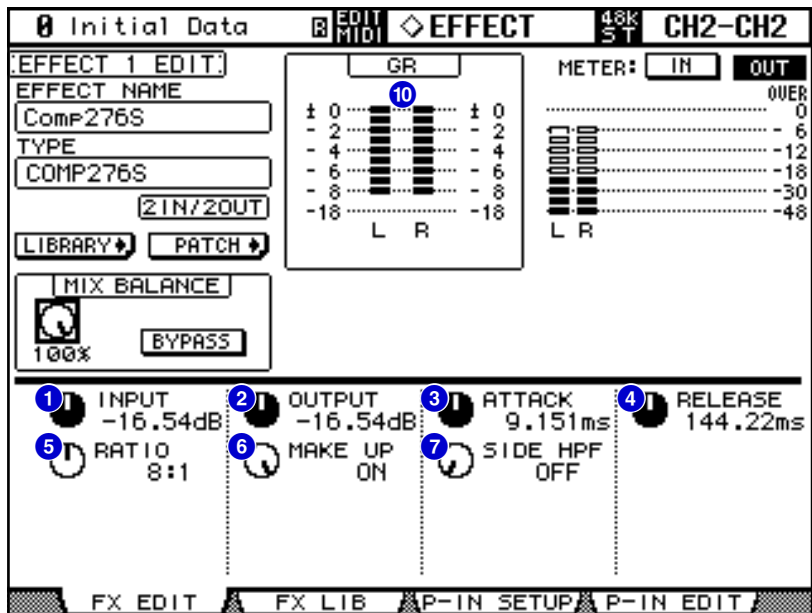


Studio Manager Generic Editorウィンドウ

各部の名称と機能



Studio Manager Compressor 276Sウィンドウ

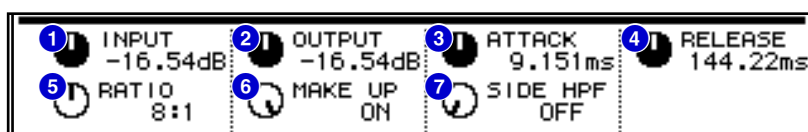


コンソール画面(この画面はDM2000のものです)

以下の説明で、

Studio Manager マークが付いている機能はStudio Managerで使用できます。

Console マークが付いている機能はコンソールで使用できます。



1 [INPUT]/[INPUT (1/2)]つまみ **Studio Manager** **Console**

インプットレベルを調節します。

NOTE 値の範囲は「-180 ~ 0 dB」です。

2 [OUTPUT]/[OUTPUT (1/2)]つまみ **Studio Manager** **Console**

アウトプットゲインを調節します。

NOTE 値の範囲は「-180 ~ 0 dB」です。

3 [ATTACK]/[ATTACK (1/2)]つまみ **Studio Manager** **Console**

コンプレッサーのアタックタイムを調節します。

NOTE 値の範囲は「0.022 ~ 50.40 ms」です。

4 [RELEASE]/[RELEASE (1/2)]つまみ **Studio Manager** **Console**

コンプレッサーのリリースタイムを調節します。

NOTE 値の範囲は「10.88 ~ 544.22 ms」です。

5 [RATIO]/[RATIO (1/2)]つまみ **Studio Manager** **Console**

コンプレッサーのレシオを調節します。

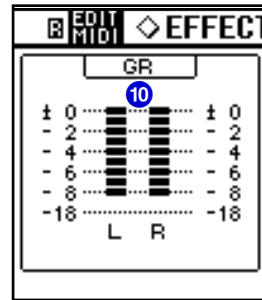
NOTE 値の範囲は「2:1, 4:1, 8:1, 12:1, 20:1」です。

6 [AUTO MAKEUP]スイッチ/[MAKE UP(1/2)]つまみ **Studio Manager** **Console**

このスイッチ/つまみをオンにすると、コンプレッサーがかかっているときのアウトプットゲインの低下を自動的に補正します。Studio Managerではオンの状態のときにLEDが赤く点灯します。

7 [SIDECHAIN HPF]スイッチ/[SIDEHPF(1/2)]つまみ **Studio Manager** **Console**

このスイッチ/つまみをオンにすると、低域へのコンプレッサーのかかりが弱くなり、低域の出力が強調されます。Studio Managerではオンの状態のときにLEDが赤く点灯します。



8 VUメーター **Studio Manager**

VUメーターです。モニターする信号は[GR][-10][-20][OFF]スイッチで選択できます。

9 [GR][-10][-20][OFF]スイッチ **Studio Manager**

VUメーターでモニターする信号を選択します。

GR：ゲインリダクション量が表示されます。

-10：-10 dBuを0VUとした信号が表示されます。

-20：-20 dBuを0VUとした信号が表示されます。

OFF：VUメーターをオフにします。

10 GRメーター **Console**

コンプレッサーがかかっているとき、ゲインリダクション量が表示されます。